



JAC-Tochigi

2017年5月

栃木支部報

第10号

目次

- p 1-2 支部報2017年の発行に当たって
- p 3-4 創立10周年記念式典・「山」講演会
- p 4-5 栃木県「山の日」記念行事
- p 6 日光光徳「親子登山教室」
- p 7-10 支部山行・行事の記録
- p 11-12 マスターズクラブ・YOUTH栃木山行記録

支部報 2017年の発行に当たって

栃木支部長

渡邊 雄二

去る3月27日の朝、那須岳で開催されていた本県の高体連登山部の春山安全登山講習会で雪崩が発生し、8名の尊い命が失われてしまうという極めて衝撃的な事故が起こってしまった。日本の登山界にとってまさに衝撃的であり、私は断腸の思いで出張先の富山県から車を飛ばして本県に戻った。悲しみは癒えることなく今も続いており、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、ご家族をはじめとする関係者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

栃木県教育委員会はすぐさま外部有識者による「検証委員会」を立ち上げ、事故原因の究明と再発防止に向けての取り組みを始めました。これらの詳細については今後の委員会の推移と9月に予定されている最終報告書を待ちたいと思う。このことは、本県登山界ばかりでなく全国の岳人も同様に心を痛めていると思うので、今後の対応をきちんとしたかたちで総括しなければならないと思う。

栃木県高体連登山部「五十年誌」(平成19年11月発行)によると、昭和32年に高校生の登山事故防止を目標に栃木県学校体育連盟の高校部に登山部が設置されました。翌年から第1回有雪期安全登山講習会が日光白根沢で実施され、第7回(40年3月)より高体連登山専門部行事の「春山安全登山講習会」として那須で実施され現在に至っています。50年以上も安全登山教育としての使命を果たしてきた講習会でした。私も、山岳部生徒として、また山岳部の顧問教師として長年関わってきましたので言葉に言い表すことができない無念さでいっぱいです。

日本山岳会栃木支部はお陰様で昨年(2016年)10周年を迎えました。本支部のこの10年は、組織としての草創期であり活動を軌道に乗せるための基礎固めといえる時期でした。今後10年を見据えた場合、活動の充実期・拡大期を標榜していく必要があると思います。そのためには、若手会員の増加が不可欠で自分たちの魅力ある山登りを充実、拡大して若い仲間を増やしていくことは勿論ですが、公益社団法人として関係団体との連携を更に深め、公益事業の内容の充実を図り、日本山岳会栃木支部の存在を本県登山界にアピールし続けていくことが重要かと思えます。

特に2013年からは、若者の登山支援のためにYOUTH栃木を立ち上げ、高校登山部の支援活動を始めたところです。本県高校登山部の雪崩事故からの再起のためにも、安全登山の普及活動のためにも、本支部の活動をますます充実・拡大していかなければと決意を新たにしているところです。

(つづく)



渡邊 支部長 (ユース栃木山行 : 2016年4月)

今年の8月には「山の日」全国集会在那須で予定されています。今回の雪崩事故の悲しみを乗り越えて、登山文化の発展のために関係行事に積極的に関わって行きたいと思えます。会員諸兄のご理解とご協力を何卒よろしくお願ひします。



平成28年度支部通常総会

期日 平成28年5月29日

会場 コンセーレ（栃木県青年会館）

参加者 会員27名

支部長挨拶 支部長 渡邊雄二

2007年5月27日に本支部が設立されてから10年になる。日下田、山野井支部長の下でこれまで共益・公益事業とも充実して実施してきており、クラブライフを楽しんできた。10年の節目を迎え、登山界の様子や日本山岳会そのものも変わりつつあるので本支部も対応しなければならない。本総会で10周年記念事業も含めて議論願いたい。また、今年がマナスル登頂60周年の記念すべき年であり、過日カトマンズにおいて登頂者である日下田實顧問をはじめ関係者が招待され盛大に祝賀会が開催された。本日は日下田顧問を囲んでのお祝い会も予定しているので、ともに喜びを分かち合いたい。との趣旨の挨拶があった。

第1～6号議案すべて審議・承認され、閉会した。

日下田顧問を囲んで “マナスル登頂60周年” お祝いする会

期日 平成28年5月29日

会場 コンセーレ（栃木県青年会館）

参加者 会員26名

1956年、今からちょうど60年前に、日本山岳会のみならず日本のまさに総力を挙げて、世界で最初にマナスル（8163メートル）の頂に立った、本支部の初代支部長であり現在は顧問の日下田實氏を囲み、マナスル登頂60周年を祝う会を開催いたしました。

冒頭渡邊支部長の挨拶から会は始まり、日下田顧問のマナスルの登頂へのプロセスを中心として、その当時の時代背景や、マナスル登頂によるネパールと日本の親善関係が構築されたことなど、まさに歴史に刻まれた偉業であったことがわかりました。また、会食の開始にあわせて、記録映画を上映しました。当時の登山隊の活動がよみがえってくる感動的な映像でした。

平成28年度支部行事一覧

	事業	期日	場所
共益	春山山行	4月24日	霧降高原歩道 日光外山
共益	支部通常総会	5月29日	コンセーレ
共益	日下田顧問を囲んで“マナスル登頂60周年”お祝いする会		
公益	「山の日」事業 日光清浄登山（栃木県山岳連盟との共催）	7月3日	奥日光周辺
公益	「山の日」事業 親子登山教室（栃木県山岳連盟との共催）	7月23～24日	学園院光徳小堂 ・男体山
公益	「山の日」事業 栃木県「山の日」制定記念フェスティバル （栃木県「山の日」協議会主催）	8月11日 （記念行事・ブース展示） 8月12日（登山教室）	日光だいや川公園 霧降高原
共益	夏山山行と懇親会	8月20～21日	奥鬼怒温泉加仁湯 及び周辺
公益	「山の日」事業 那須岳クワリンキャンペーン（栃木県山岳連盟との共催）	9月4日	那須岳周辺
公益	ヒマラヤの集い（コンセーレとの共催）	9月27日	コンセーレ
共益	秋山山行	10月29日	男体山
公益	支部創立10周年記念式典 支部創立10周年記念支部総整行 支部創立10周年記念祝賀会	11月27日	コンセーレ
公益	支部創立10周年記念「山」の講演会（コンセーレとの共催）		
共益	冬山山行と10周年記念新年会	2017年 1月22～23日	塩原温泉明賢庵 及び前黒山
共益	四支部合同懇親山行（群馬支部主管）	2017年 2月18～19日	砂巻山周辺、 神成山、富岡製糸場他



HIMALAYAN TIME 記事(2016年4月30日)

会は盛会のうちにお開きとなりましたが、改めて歴史の偉業を作られた、日下田顧問の偉大さと同時に、そのような方が本支部にいらっしゃるありがたさを痛感する会でもありました。

支部創立10周年記念式典・「山」の講演会

ちょうど10年前の平成19年5月27日の産声を上げた栃木支部は10年目となり、平成28年11月27日（日）に創立10周年記念式典・記念祝賀会を催すことができました。栃木県青年会館の横山理事長、栃木県山岳連盟の及川副会長のほか日本山岳会の小林会長、北関東ブロックの各支部長に来賓としてご臨席いただきありがとうございました。

また、当日公益事業として“「山」の講演会”を開催、重廣恒夫氏を講師としてお招きして、ヒマラヤ遠征を通じたご自身の経験から、“探検的ヒマラヤ登山のすすめ”を熱く語っていただきました。

「支部創立10周年記念事業募金」ご報告：支部会員内外33名から目標を大きく上回る468,000円のご支援を頂きました。ありがとうございました。結果として余剰金143,946円が生じたため、役員会に諮り「支部周年行事事業基金」を設立して特別会計で管理し、後年使わせて頂くこととしました。

栃木支部創立10周年 記念式典・記念祝賀会

仲島 正子

■記念式典：午後1時30分～午後2時

会 場 コンセーレ（栃木県青年会館）小ホール

参加者 来賓6名 出席者38名

式次第

1. 開式 司会 麦倉 常治
2. 式辞 日本山岳会栃木支部長 渡邊 雄二
3. 来賓祝辞 日本山岳会会長 小林 政志
日本山岳会茨城支部長 浅野 勝己
栃木県山岳連盟会長 代理 糸川 章
栃木県青年会館理事長 横山 陽一
4. 閉式 閉式の後、記念撮影。

- ・記念式典受付にて、10周年記念誌と記念品（JACマーク入りエコバッグ）を配布。10周年の歴史が感じられ、好評を得た。
- ・各界から祝辞を戴き、創立からの連綿とした活動を評価していただいた。今後の益々の発展を期待され、重責を担うとともに、誇らしかった。



■記念祝賀会：午後4時20分～午後6時10分

会 場 コンセーレ（栃木県青年会館）小ホール

参加者 来賓6名 出席者36名

会 費 5,000円（記念品代含む）

会次第

1. 開会 司会 麦倉 常治
 2. 挨拶 日本山岳会栃木支部長 渡邊 雄二
 3. 乾杯 日本山岳会千葉支部長 三木 雄三
 4. 懇談
 5. 中締め 日本山岳会群馬支部長 田中 壯侖
- ・来賓の方々を中心に、懇親の輪が広がり、和やかな一時を過ごし、10年の経過に思いを馳せた。
 - ・山の講演会講師の重廣氏より、兵庫県の地酒が差し入れられ、座が更に盛り上がった。会員からの差し入れて頂いた日本酒も美味しく、ありがとうございました。
 - ・本日は天気も良く、男体山をはじめとする栃木県の象徴とも言える山岳景観が素晴らしかったが、千葉支部長の“羨ましい”コメントに、改めて地元愛が募った。

公益事業：第10回「山」の講演会

演題：『21年ぶりのヒマラヤ登山

～ナンガマリⅡ峰（6209m）初登頂～』

講演内容の抜粋

神島 仁誓

この演題にもあるように『21年ぶりのヒマラヤ登山』ということで、1995年のマカルーを最後に日本の山ばかりを登っていた。私の過ごした68年の人生をお話しようと思う。

1947年生まれ。1961年中学校2年の時に、人類が初めて1950年に8000m峰に登った『処女峰アンナプルナ』が発売された。それでヒマラヤに行きたいと思うようになった。中学校3年の時には、ガストン・レビュファの『雪と岩』を手にした。こんなに素晴らしい世界があるんだということで、初めて麻のザイルを手にした。高校1年の頃から本格的に岩登りをするようになった。

1978年には当時の「オニツカ」、現在の「アシックス」に入社した。その年にRCCⅡの湯浅道男さんからエベレスト南西壁の登山隊の誘いがあった。1973年RCCⅡの第二次エベレストの南西壁の登山隊に参加。今日おいでの群馬支部長の田中さんもドクターとして参加された。私には初めての海外登山・ヒマラヤ登山であった。通常ルートから石黒久、加藤保男の2名が秋の初めてのエベレスト登頂。この登山隊が、おそらく技術・体力・精神面でも、現在ではおられないような優れた集団ではなかったかと思う。

日本山岳会のヒマラヤ登山の歴史(1976~95)というのは、登山連鎖の軌跡。それぞれが登山の回数を重ねることでその能力を高めていくということで、それによって登山の目的の山をステップアップすることができる。ちなみにナンダデビィの縦走(1976年)は日本山岳会の創立70周年記念事業、カンチェンジュンガ(1984年)は80周年記念事業、マカルー(1995年)は90周年の記念事業であった。その翌年には青年部がK2の南南東稜に登り、その翌年にはマカルーに参加をした田辺くんなどが西稜から西壁へと。1998年にはマカルー参加の隊員がカンチェンジュンガの北壁から頂上に到達をした。残念ながらその後は節目の時に日本山岳会は登山隊が出せずに今日に至っている。

今回の登山の目的は、日本山岳会は長い間ヒマラヤ登山を続けてきたが、この20年ほどはその登山が行われていない。このままでは、日本山岳

会がこれまで行ってきた探検的登山がすたれてしまうのではないか、という思いがあった。

できればそれを若い人たちに伝承したい。私を除いて隊員が9名。6000m峰に登ったことのあるのが2名で、それ以外は山登りも初めてという方が半数。3年かけて彼らを一人前にしたいとヒマラヤ登山塾を開催した。知識を得て、体力を鍛えてもらう。そして技術を醸成してもらう。過去の登山隊報告書の輪読、月に3回の例会、出発までに34回の講座を実施した。何とかナンガマリⅡ峰に全員が登ることができた、が。現地に入って愕然とした。要するに身につけていない。昨今の登山は平板になってきている。昔の耐えるという登山がなくなっている。73年にエベレストに行った人たちの力を1とすると、1995年のマカルー登山隊はその半分の0.5、今回の登山隊はさらにその半分の0.25くらいではないのかな。

なぜかと考えたが、一つは本を読まない。必要なものだけは切り取る。途中の山ことや山の歴史といったことには会話がなかなか進まない。幅広い知識が欠落している。日頃の山行日数が少なくなっている。おそらく昔の三分の一ではないか。このままでは日本のヒマラヤ登山はすたれてしまう。「探検的ヒマラヤ登山のすすめ」をしたい。

昨今、日本の山岳界の問題というのは、登山人口が少なくなってきたこともあるし、事故だけは増え続けている現実がある。一生懸命に日本山岳会も我々の山岳会も会員を増やそうとしているが。若い人たちに、若い人に限らず、興味をもってもらおう方策をつくらないかぎり、具体的な例を示さない限り難しいのではないかと。いろいろな人が興味を示す方策というのも、この「探検的ヒマラヤ登山」から発信できるのではないかとということで、今回の登山を通じて、私に残った宿題であります。しばらくはそれに時間を費やしたいと思います。

栃木県「山の日」記念行事 2016

国民の祝日となった「山の日」を祝うと共に、山の日意義について広く県民に普及啓蒙を図るため、栃木県「山の日」協議会は『栃木県「山の日」制定記念フェスティバル』及び『「山の日」制定記念ファミリー登山教室 in 霧降高原』を実施した。

主催：栃木県「山の日」協議会 共催：栃木県 後援：日光市
協力：栃木県山岳連盟・栃木県勤労者山岳連盟・日本山岳会栃木支部

【実施概要】

1. 栃木県「山の日」制定記念フェスティバル
平成28年8月11日（木・祝） 10:00～16:00
場 所： 日光だいや川公園
参加者数： 一般参加 約2,000人
2. 「山の日」制定記念ファミリー登山教室
平成28年8月12日（金） 8:30～15:00
場 所： 日光霧降高原
参加者数 一般参加 98名
日本体育協会公認山岳指導員がサポートして、安全な山登りの楽しみ方や、自然の素晴らしさを体験する登山教室を実施。
①赤薙山コース（参加者10人）： 県岳連担当
②隠れ三滝コース（参加者35人）： 栃木支部
③丸山コース（参加者53人）： 県労山担当

栃木県「山の日」制定記念 フェスティバル

前田 文彦

栃木県山岳三団体（栃木県山岳連盟・栃木県勤労者山岳連盟・日本山岳会栃木支部）が共同で『ふるさと「栃木」の山を登ろう！』をキャッチフレーズに、ブースを設け『ふるさと「栃木」の山登山相談所』を開設し来場者の相談に応じた。

栃木支部は9名がスタッフ参加し、ブース展示の企画及び準備を行いマナスル登頂60周年記念のパネル掲示、「山」・「登山月報」など機関誌の展示配布、日本山岳会活動のDVD上映を行った。

フェスティバル最初のイベントで、マナスル登頂60周年を祝い、栃木県「山の日」協議会の喜内会長より日下田会員に表彰があった。



日下田会員への表彰

栃木県「山の日」制定記念 ファミリー登山教室

前田 文彦

当日は曇りで部分的に青空も見え、栃木支部スタッフ10名は朝7時半に霧降高原キスゲ平園地第3駐車場に集合、登山教室の準備をした。

“隠れ三滝コース”は出発点のキスゲ平駐車場から途中大山への登りがあるが、全体としては下りの楽なコース。ただ途中ヤマヒルがいることがわかっていたので、出発式で参加者に説明し、ヒルよけスプレーなどの対応を行った。

霧降高原駐車場出発 9:10～10:50 大山（昼食）
11:50～14:10 つつじヶ丘駐車場 14:30
（バスで移動）14:50 霧降高原駐車場帰着

参加者はスタッフを入れて50名弱となり、列も長くなるので4班に分け、小島CLが植生などの説明を簡易無線機で伝わるように歩いた。

戊辰道の歴史を学び、樹林帯を抜けて霧降高原牧場に入ると視界が大きく広がる。標高1158.1mの大山に着いた。展望の良い大山で少し早いですが、予定通りの昼食。各ファミリー思い思いの昼食の後、地図とコンパスのレクチャーを行った。



全員集合で、山頂記念写真

1時間ほどの休息の後、「マックラの滝」・「玉簾滝」・「丁字滝」の「隠れ三滝」へ向かって下山を開始した。舗装道路を歩くと言っても、高原で景色が見られ、気持ちが良い。1時間弱でマックラの滝に着くと、ひと味違う樹林の緑とその中の水の流れが美しい。続いて玉簾滝・丁字滝とまわった。ところで休息中に子供の足にヒルがついているのを発見、血を吸われることなく対処ができた。山にいる生物をむやみに怖がること無く経験することができたのは、自然を体験する意味で良かったと思う。

滝巡りを終わり、40分ほどで終着のつつじヶ丘に着いた。ここからバスで出発地点の霧降高原駐車場に戻る。今回の登山教室は、子供達に対して「山に親しみ知識を得る」機会を提供できたと考えている。

公益事業：第5回日光光徳「親子登山教室」

美しく雄大な自然にふれながら、親子の絆を深め、他人との協働と日光山系（男体山）登山による自然体験を通して、心身ともにたくましく自立する青少年の人格形成の一助とする。

【開催日】 平成28年7月23日(土)～24日(日) 1泊2日

【開催地】 栃木県日光市 学習院日光光徳小屋 及び 山王峠／男体山（2486m）

【主催】 日本山岳会栃木支部

【共催】 栃木県山岳連盟

【後援】 栃木県教育委員会・日光市教育委員会・学習院山桜会

仲島 正子

- ◆ 7月23日(土) 晴れ後曇り
 - 9:30～10:00 光徳駐車場にて受付
 - 10:30～ 光徳小屋着／開会式
 - 11:00～ 昼食, 荷物の整理
 - 12:00～15:00 山王峠ハイキング
 - 16:30～ 夕べの集い・夕食準備
 - 18:00～ 夕食, 後片付け並びに明日の朝食準備
 - 20:00～20:30 講話
 - 21:00 就寝
- ◆ 7月24日(日) 晴れ時々曇り
 - 4:00 起床, 朝食準備, 朝食, 部屋の清掃
 - 6:00 光徳小屋発
 - 6:30～ 6:50 男体山登山口(準備体操)
 - 10:10～10:50 男体山山頂, 昼食
 - 13:50～14:05 男体山登山口(整理運動)
 - 14:20～14:50 光徳駐車場閉会式, 解散

平成24年に始めた親子登山教室は、第5回目を迎えることができた。定員を超える申し込みがあり、抽選の結果、親子12組、28名、講師2名、栃木支部スタッフ8名で実施した。

23日、いろは坂は小雨が降っていたが、中宮祠に来ると爽やかな天候になる。二荒山神社で明日の男体山登山安全祈願をして、参加者へのお守りを頂く。10時には全員が光徳駐車場集合、光徳小屋まで荷物を持って移動し、開会式を行う。

12時、小学1年生を先頭に低学年から山王峠に出発する。途中富永講師からキノコや植物の講話。そして山王峠に到着、ここで読図の講義を受けた。下山を開始して、光徳小屋に元気に戻った。

夕べの集いでは、5回連続参加している高野あすかさんが参加の抱負を述べた。そのあと子供たちとスタッフが、保護者の心配をよそに嬉々として夕食(カレー)の準備を行った。夕食後は後片付け、そして明日の朝食のおにぎり作りもまた楽しそうだった。

外での観測会は今年も天気が悪く中止、屋内で富永講師から星座の講義。話も分かりやすく興味深いものであり、子供たちは熱心に聞いていた。

24日、登山教室2日目、子供たちはスタッフと朝食準備、朝食後、記念写真を撮り出発した。登山口(志津口)に到着、準備体操の後全員元気に出発した。天気も良く絶好の登山日和になる。

二合目で見晴らしが良くなり、昨年登った太郎山の眺望が素晴らしい。その後樹林帯の登りが続き、七合目からはガレ場となり足元に注意しながらの登山になる。富永講師から高山植物の説明を聞きながら、八合目で小休止。九合目からは傾斜も緩やかになり、大真名子山、太郎山、女峰山そして光徳方面の眺望を楽しみながら登る。男体山山頂到着。山頂で反対側の二荒山神社から登ってきた前田事務局長と下野新聞社渡辺記者の取材チームと合流する。



男体山に全員登頂！

山頂で記念写真を撮り、ゆっくりと昼食。同じルートを下山し、全員元気に登山口に到着した。車を待つ間富永講師に講話をして頂く。光徳駐車場に戻り、閉会式を行う。親子登山教室修了証を参加者の子供に渡した後、解散した。

子どもたちが嬉々として夕食や朝食の準備をする姿、男体山を元気に登り、頂上に着いた時の満足感にあふれた笑顔を見たとき、準備の苦労を忘れ、この親子登山教室を実施して良かったと実感した。子供たちの元気な姿がある限り、次年度以降もこの事業を継続したいと思っています。

支部山行・行事の記録

春山山行： 霧降高原歩道・日光外山

上田 景子

平成28年4月24日（日）

参加者：小島，前田F，山本，関根，菱田，北見，吉澤，村田，五月女（村田友人），上田

コース：日光所野運動公園集合（9：00集合）
-外山登山口近く-霧降高原歩道入口-見晴台-
稻荷川堰堤-外山登山口-外山登山口より往復
登山-所野運動公園解散

車を外山キャンプ場手前あたりにデポし、前田車・北見車で霧降高原歩道入口まで行き、周辺のスペースに車を2台停める。山本さんは一人で外山のキャンプ場あたりを散策。

9：45出発、カラマツの1センチほどの芽吹きは何と可愛いこと！ヒネリギ沢を渡り、ときどき枝葉のように別れる登山道を、小島さんが「これはどこどこから来た道」とか「行く道」と解説、見晴らし台11：00記念撮影、登りはここまで。下りはじめのあたりは樹々の芽はまだ冬の芽でところどころにアカヤシオがここよここよと目立ち始める。斜面の大きな岩の上に、覆いかぶさるようにアカヤシオが咲いていて、歓声を上げてしまった！ここでカメラタイムとなる。たちつぽすみれ、叡山すみれ、などなど、花の散歩道となる。堰堤近くなって、一人静か、二輪草（？）一輪草（？）が増えてくる。村田さんが何気なしに足に手をやると、ヌルッ！！ヒルだ！！あ、あ、もうそんな時期になったのだと納得。

稻荷川堰堤で12：00ランチタイム。12：20出発。途中の水たまりに九輪草の葉っぱを発見。ここに隠れた九輪草の観光地になるのかな？

小島さんの車のそばで山本さんが足を血だらけにして座っていた。何と、ヒルの仕業！小島さんが霧降高原歩道入り口まで前田さん、北見さんを乗せて走る。我々はトコトコ歩いて登山口まで行く。Good timing！三台の車が到着。

13：30記念撮影をして登りは始める。午後の登りはきつい、頂上15：00女峰は春霞で見えず、ただ今日歩いた80°角度ほどの山のなだりを見て感激！毘沙門様の前で小島 coffee が開

店、挽きたてのコーヒーを淹れてくださる。山の中腹にぽっぽっとあれがアカヤシオ、山桜ではない、私にもやっとわかるようになった。

駐車場16：00北見さん指揮の整理体操をして解散。おつかれさんでした。

夏山山行・懇親会： 奥鬼怒 加仁湯・鬼怒沼山

上田 景子

平成28年8月20日（土）～21日（日）

奥鬼怒温泉郷 加仁湯宿泊，鬼怒沼山（2140m）

参加者：渡邊，坂口（三），牛窪，前田F，山本，蓮実，菱田，増渕，鈴木，村田，坂口（直），藤田，五月女，前田Y，上田

行動：

20日 雨のため全員送迎バスで加仁湯に向かう。

21日

鬼怒沼班：蓮実，増渕，藤田，五月女，前田Y

鬼怒沼山班：渡邊，前田F，菱田，鈴木，

坂口（直），上田

加仁湯周辺：坂口（三），牛窪，山本，村田

折角、加仁湯に泊まるのであるから、加仁湯周辺を歩くに限る、また今年は10周年であることから、鬼怒沼山に登山と意気込んで計画した。

土砂降りの雨の中参加して下さった15名、渡邊支部長の挨拶から始まり、坂口幹事の乾杯の音頭で宴会がスタートした。食事をしながら雑談。最近の山事情の交換、世間話に花が咲いた。山の話聞いて自分の山行に役立てようと思えば、自分が話すことなど忘れて、うつとりと聞き入ってしまう、そんな懇親会だった。

いつものように7時朝食、8時出発が5分遅れた。日光沢温泉の護岸工事が以前より進み、コンクリートが多くなっているように見えた。道路際には色あせたプラスチックの花がプランターに置かれてあつた。菱田さんが咄嗟に気づいて「あれはなんでしょうね」と言つた。みどりの一番美しい場所に、水の一番美味しい奇麗なところで、本当の花が咲いているところで、プラスチックの花はないでしょう、私も理解に苦しんだ。

絶えず沢の音を聞きながら、急登、急登の繰り返し、昨日の雨で道はさぞ泥んこであろうと思えばさほどひどくなく、それでも緩やかなのぼりになると水たまりも多くなってきた。

11時、沼に到着。ここで鬼怒沼山へ往復1時間半、山へ行きたい人を募ると、渡邊さんが先頭になつて引っ張って行ってくれた。さっさと上る渡邊さん、前田Fさん、坂口（直）さん、菱田さん、なぜか皆さんコンパスが大きい、鈴木さんが後から行くと言ったので、私は倣つたが、到底追いつかず、最後の登りで、渡邊さんたちがドドッと降りてきたので、あ、あ、間に合わなかつた…。下りようとする、「すぐそこだ、行つてきなさい」12:03 頂上に立った。

12時40分鬼怒沼に降りてきて最初のベンチで、渡邊さん一行が昼食をとっていた。よかつた!!!ごはんが食べられる!!12時半にここを出ることだったので、昼食にありつつけるとは思つてもみなかつた。おにぎり一つを頬張つた。

14時30分に加仁湯に到着するには、猪突猛進せよ!!!12時50分鬼怒沼発、渡邊さんの後ろをすべるように、降りる、降りる、下る、おりる!温泉神社にお礼をして、日光沢の水をたっぷりいただいて、もつと飲みたい!そんな気持ちだつた。14時40分加仁湯到着、あ、あ、登ってきてよかつた〜と思う。にごり湯で今日の疲れをいやし、かき氷でまたのどを潤した。(上田記)

ヒナタオソロシの滝（日向恐ろしの滝別働隊）は本隊の後に続いてのんびりと奥鬼怒探査とシャレこみ歩き始めた。まず、最初に普段通り過ぎてしまう温泉神社による。本殿に参拝すると、この神社の主が鬼怒川一帯を守ってくれていると感じられる荘厳な雰囲気があつた。

次にノシの滝による。漢字で焚斗と書くそうで、水引のような繊細な水の流れる下まで行き、シャワーを浴びて滝と触れ合うことができた。

マタギに出会いそんな吊り橋を渡つたところで休憩、坂口（三）さんから花や昆虫の話をつかう。ここで村田さんが虫アレルギーだとわかり、しばし休憩時の話題で盛り上がった。本人には悪いが、微笑みが感じられた楽しいひと時であつた。

観爆台までのコースはかなり登りはきつく、決して山歩きは楽にさせてくれないと感じ、尾根に出るまで汗を絞られた。それでも夏木立に包まれ堂々と落ちるヒナタオソロシの滝を見た瞬間、疲れも吹っ飛んでしまった。また紅葉時には再訪してみたいと、観爆台を後にした。(山本記)

バスは15時40分発。女夫淵駐車場着16時。皆様〜〜お疲れさまでした。16時05分散散。来年は平成29年8月19日、20日です。よろしくお祈りします!!

公益事業：第8回ヒマラヤの集い

演題：『赤道直下エクアドルの山々

～赤道直下の氷河の山を映像で紹介～』

猿山 浩

日 時：平成29年9月27日（火）

18:30～19:55

場 所：コンセーレ（栃木県青年会館）小ホール

主 催：（公社）日本山岳会栃木支部

共 催：（一財）栃木県青年会館

後 援：栃木県山岳連盟

講 師：パトリシオ・ティサレマ氏

参加者：会員18名、一般参加22名 計40名

ライト&ファースト（軽装備で早く）」でヒマラヤの高峰を登る桁違いの高所登山家パトリシオ・ティサレマ氏を講師に迎え、素晴らしい映像のスライドを交え講演していただいた。



氏は、南米エクアドル出身で、2006年、エベレスト（チョモランマ）をわずか4日間で無酸素・単独で登頂に成功。さらには、キリマンジャロを12時間、南米アコンカグアを8時間で走って登頂するなど、世界7大陸最高峰を1年で制覇した驚愕の登山家である。また、母国語のスペイン語はもちろんのこと、ドイツ語、英語、日本語を操る。写真家で、エクアドルで登山ガイドをしている。また、奥さんは日本人であり、観光ガイドをしている。今回は、夫人と1歳の娘さんとともに来日し、渡邊支部長のご尽力で公演をして頂くことになった。

18時30分渡邊支部長の挨拶及び講師紹介のち、パトリシオ氏の講演が開始された。日本に興味を持ち大学で日本語を学び、卒業後來日し、立山でガイドの仕事しながら、日本語・日本の文化に触れながらより日本に親しみをもつようになった。

次に、エクアドルの最高峰チンボラソ（6310m）、第2位の高峰コトバクシ山（5897m）、第3位の高峰カヤンベ山（5790m）をはじめとするエクアドルの山々を写真家ならではの素晴らしい映像を交え紹介していただいた。チンボラソは、首都キドから150kmとヒマラヤの高峰に比べアプローチの便が良く2日間で登ることができることである。海拔高度で見た場合世界一高い山はエベレストであるが、赤道地域の方がエベレストのある場所（北緯28度）よりも地球の半径が大きく水面も高い。この結果、標高ではチンボラソの標高よりエベレストのほうが約2500m高いが、地球の中心からの距離ではチンボラソが約6384.4km、エベレストが6382.3kmであり、地球の中心から最も離れたチンボラソの方が約2.1km上回るなど興味深い話をされた。

さらに、日本の方々も是非ともエクアドルに来て、手軽に登れるエクアドルの高峰に登って欲しいとのことであった。

そして、7大陸最高峰に挑戦し、最後に登ったエベレスト登山の話となる。資金集めに苦労しながら、地元エクアドルの山々で高所順応、専属のトレーナーのアドバイスを得ながらトレーニングをし、無酸素・単独で中国側からエベレストに登頂する。登頂に際し他の隊のシェルパなどから無理だと言われたりしながらも、果敢に挑戦し何度も引き返そうと思いつつも登頂した時の心情を、熱く話していただいた。日本語の微妙な表現については、夫人に助けをもらいながら話していただき感動した。講演後、参加者からの質問に時間をオーバーして答えていただいた。

最後に、渡邊支部長から2018年には、日本とエクアドルの外交樹立100周年を迎えるとの紹介と講演の謝辞があり、盛会のうちに19時55分講演会を終了した。講演会終了後、パトリシオさんを囲んでの懇親会が開催された。

秋山山行：男体山



二荒山神社から男体山に登る

秋の一日、親子登山教室で登った男体山（2486m）を二荒山神社と志津口より登りを楽しんだ。
平成28年10月29日（土）

参加者：斉藤，渡邊，石澤，菱田，大村（菱田友人），村田，五月女，坂口（直），坂口（三），小島，前田Y，鈴木，上田，藤田

《志津コース》7：45光徳の駐車場に集合、志津峠に向かう。8：30志津峠出発、2合目あたりで坂口さんが《5合目あたりまで行って帰る》とのことで、鈴木さんが同行することになった。

5合目風が強く冷たく頂上は寒かろうと思いつつも登るが、7合目いつの間にか冷たい風がなくなっていた。米梅の若木がそこここに生えていた。無間地獄のあとは、はっきりと四方の山々が見えるようになった。太郎、大真名子、小真名子、帝釈、女峰、赤薙、男体山、家族はがっちり手を組んでいるように見えた。根名草山、温泉が岳、金精山が見える。白根山のてっぺんが見えず、白錫尾根は雲の中。

10合目頂上、12：10着、広い頂上の北と南で神社班を探し合図しあう、そのうれしさ！！風をよけて一緒に食事。中禅寺湖を眼下に見て、社山も半月も低い。話もそこそこに12：40神社班と頂上に別れを告げ、元来た道に戻る。

15：15志津峠着、坂口さん、鈴木さんが車の中で1時間も待っていてくださった。あ、あ、あ、申し訳ありませんでした。光徳駐車場に行き、それぞれ帰途についた。（上田記）

《二荒山コース》8時に二荒山神社駐車場に、渡邊、石澤、坂口（直）、斎藤、村田、五月女、菱田、大村の8名が集合する。素晴らしい天気、紅葉も素晴らしい。出発準備をして、8：10二荒山神社出発。

登るにつれて紅葉に染まった中禅寺湖が見える。3合目からは林道を歩き、4合目に到着し小休止をする。4合目から登山道に入り7合目に10:30分到着。樹林帯を過ぎると、眼下に中禅寺湖、そして、黒桧、社山の展望も素晴らしい。

最後のガレ場を登ると男体山頂上である。12:10到着。ほぼ同時に志津コースのメンバーも到着した。頂上で昼食を取る。

12:40志津コース、二荒山コースとも元来た道に戻る。15:40二荒山神社着。ここで解散し、それぞれ帰途についた。(石澤記)

山岳環境保全事業： 日光清掃登山

平成29年7月3日(日) 栃木県山岳連盟と共催
湯元～奥白根コース/湯元～切込湖刈込湖コース
参加者約200名(内支部関係者11名)

山岳環境保全事業： 那須クリーンキャンペーン

平成29年9月4日(日) 栃木県山岳連盟と共催
峰の茶屋～那須茶臼岳～三斗小屋～峰の茶屋
参加者約120名(内支部関係者9名)

冬山山行・新年会： 前黒山・塩原温泉 明賀屋本館

石澤 好文

平成29年1月22日(日)～23日(月)

《前黒山(1678m)登山》1月22日

参加者：渡邊、前田Y、牛窪、前田F、石澤、

上田、長、猿山、鈴木、村田、藤田

本支部創立10周年を記念して、今年度の冬山山行を前黒山で実施した。道の駅「湯の香しおぼら」駐車場に三々五々集合、8時30分出発する。

有料道路ゲート前で、渡邊支部長の挨拶の後、記念写真を撮り9時10分登山口に向けて出発する。予定していた登山口の駐車スペースは雪のため入ることができず、有料道路ゲート前の駐車場まで戻る。予定より遅れてしまい、9時40分駐車場を再度出発する。

有料道路を歩き、登山口(林道入口)に10時到着。思ったよりも雪が深く膝下までもぐる。ワカン・スノーシューを持参している者は、装着する。快晴の中林道を進み、尾根取り付き12時15分到着。渡邊・前田F・石澤・猿山4名以外は、尾根取り付きまで来て、昼食を取りここから下山する。

尾根取り付きからは、急登となる。雪も深くなりラッセルに苦勞する。また、笹の上に雪が載っており歩きにくい。先頭を交換しながらラッセルし、14時30分前黒山山頂に到着。頂上には、反対側から登ったと思われるトレースがある。頂上で記念写真を撮り14時40分頂上を後にする。頂上からの見晴らしはあまり良くない。ハンターマウンテン方面が望める程度であった。



前黒山山頂

尾根取り付き15時10分、登山口(林道入口)16時45分、駐車場17時到着。何とか暗くなる前に戻ることができた。本日の宿泊地明賀屋本館には17時30分着。

《新年会》1月22日夜～23日

参加者：渡邊、坂口(三)、前田Y、牛窪、前田

F、石澤、山本、上田、長、猿山、鈴木、

神島、村田、君島、藤田

明賀屋にて、18時40分より新年会を開催する。渡邊支部長の挨拶に続き坂口監事の乾杯で開宴する。君島会員・深谷会員・坂口監事・藤田氏より美味なるお酒の差し入れを頂く。素晴らしいご馳走に舌鼓を打ちながら懇親を深める。

翌日は朝食会場で渡邊支部長より挨拶を頂き解散する。解散後は、宿でゆっくりする者、ハンターマウンテンスキー場でスキーをする者、すぐに帰宅する者に分かれる。今回は、明賀屋のオーナー君島会員には何かとお世話になりました。お蔭様で楽しいひと時を過ごすことができました。この紙面をお借りして感謝致します。

マスターズクラブ・YOUTH 栃木山行記録

《平成28年度 マスターズクラブ 山行報告》

平成28年

- 5月 剣ヶ峰 (1540m)・大入道 (1402m)
9名+会員外7名参加
- 6月 鶏頂山 (1765m)・釈迦が岳 (1795m)
6名参加
- 7月 半月山 (1735m)・旧英国大使館別邸
8名参加
- 9月 日留賀岳 (1849m) 3名参加
- 11月 鶏岳 (668m) 6名参加
- 12月 茶臼山 (517m)・毘沙門山 (587m)
9名参加

平成29年

- 2月 塩原大沼公園散策 (962~966m)
5名参加

春は花の季節、樹木の花が美しい、5月大入道のシロヤシオを見に行き、6月霧の中鶏頂山、釈迦が岳では弁天沼でモリアオガエルのたまごが薄緑色に大きく膨らんでぶら下がっているのを見た。動植物の生態を間近にみる事ができた。9月今までの山行行程の中で一番長い日留賀岳に挑戦してみた。年をとっても足は山の斜面にぴつたりと付き、時間をかければ登ることができることを実感した。

県内に「鶏」とつく山が、栃木百名山の中に4つもある。鶏鳴山(2015, 10山行)、鶏足山(2016, 2山行)、鶏頂山、鶏岳、昨年で全部登ることができた。鶏岳の金の鶏がマスターズクラブを応援してくれているようにも思えた。

また、今までの2, 3月の山は雪のないところを選んでしたが、2, 3月は雪の季節、それを避けるのではなく雪を楽しみたいという気持ちになり、これは大きな変化であった。3月山王帽子山は天候の悪化で中止になったが、2月の大沼公園散策は有意義であった。(上田記)

《平成28年度 YOUTH栃木 山行報告》

平成28年度ユース栃木として2回の山行を行った。

① 平成28年4月2~3日

成蹊学園虹芝寮山行 (一ノ倉岳スキー登山)

② 平成28年7月24~26日

大田原高校山岳部北岳夏山合宿サポート

夏の合宿サポートは恒例になりつつあるので高体連の先生方と連絡を取りながら、継続させていければと考える。そしてユースの活動に興味を持ってもらうきっかけになればと思う。(深谷記)

YOUTH 栃木 :

虹芝寮スプリングミーティング 2017

毎年四月に行っています栃木支部の谷川岳芝倉沢にある成蹊学園虹芝寮での山行は2017年で4回目になりました。当初は支部会員対象に行いましたが、昨年よりユース栃木の山行としての開催にしました。成蹊学園にお世話になり、成蹊山岳部の若手や支部会員外の山仲間も集まり寮での食事や懇談、翌日の山行を楽しんでいます。

これからはユース栃木「虹芝寮スプリングミーティング」として北関東ブロックにも声をかけ、支部外も含めて、お互いの次のステップへ横のつながりを深めて行ければ良いと考えています。

深谷 篤志

成蹊学園の虹芝寮に宿泊させて頂き親睦を深めながら春の残雪期の登山能力の向上を図る。

平成29年4月4月15日(土)~16日(日)
谷川岳周辺 成蹊大虹芝寮~芝倉沢~一ノ倉岳

参加者：栃木支部 渡邊，前田F，麦倉，深谷
 群馬支部 小野里節司
 本田技研栃木山岳部 小林和典
 成蹊大学山岳部OB 佐藤大輔

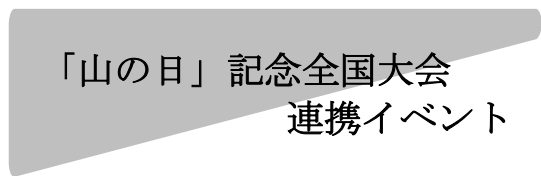
行動：

4月15日（土）12:00 土合山の家集合＝12:30
 出発＝14:50 虹芝寮到着
 4月16日（日）5:30 虹芝寮出発＝10:00 一ノ倉
 岳＝12:00 虹芝寮＝13:40 土合山の家到着解散
 4月15日土合山の家集合し食糧を荷分けし
 て出発。昨年よりかなり雪が多く出発してすぐス
 キー組はスキーを付けての行動になる。ツボ足組
 も雪が閉まっていたのでさほど歩きづらさはな
 い。虹芝寮に到着し夕食の準備をしながらくつろ
 ぐ。虹芝寮も今年は雪にすっぽりと埋まってい
 た。夕食はキムチ鍋。沢山あるように見えたが完
 食。楽しくストーブを囲んで歓談。ストーブの火
 が心地よい。シュラフではなく布団で寝られてま
 さに天国。

4月16日（日）4:00 起床し朝食、出発の準備。
 5:30に出発。雪が多いので昨年より上のルー
 トで芝倉沢にとりつく。デブリが多いので気を付
 けながら進む。スキー組はスキーを付けて進む。
 ホンダの小林さん大学時代に鍛えたスキー技術&
 体力素晴らしかったです！途中群馬支部の小野里
 さんは虹芝寮のにて下山。天気も最高で半袖で歩い



ても汗ばむ感じした。時間も早いのかすれ違う登
 山者はいなかった。10:00に無事一ノ倉岳ピーク
 に到着。雪が多いので雪庇がかなり張り出して
 いた。写真撮影も気を付けて行う。下山はスキー！
 （佐藤さんと深谷はツボ足）皆さんかなり快調で
 あっという間にいなくなりました。12:00虹芝寮
 に到着し小野里さんとも合流。来た時よりも美し
 くの精神で渡邊支部長を中心に清掃。記念撮影を
 して虹芝寮を後にして土合山の家に向かう。13:40
 到着し解散となった。



《栃木支部事業》

- 「山」の講演会：6月25日（日） コンセーレ
 「山のグレーディングと安全登山」について講
 演を行います。栃木県でも7月下旬に「山のグ
 レーディング」を公表予定です。
- 親子登山教室：7月22日（土）～23日（日）
 光徳・女峰山 小・中学生の親子 約30名

《栃木県「山の日」協議会事業》

- 安全登山のためのファミリー登山教室 in 那須
 栃木県山岳連盟，栃木県勤労者山岳連盟，日本山
 岳会栃木支部の三団体で行います。
 9月3日（日） 那須高原ビジターセンター
 那須茶臼岳 --- 栃木県勤労者山岳連盟
 那須朝日岳 --- 日本山岳会栃木支部
 南月山 --- 栃木県山岳連盟

☆☆あとかぎ☆☆

- まず、お詫び。ページの制約(経費削減)か
 ら元原稿に手を入れさせていただきました。
 ご容赦ください。
- 山岳遭難の要因は「体力」・「技術」・「経験
 (知識)」と言われています。
- 経験をつむと「まあ・・・」で判断しがちです。
- 「体力」・「技術」・「経験」を常にリフレッシュ
 して、安全な登山に向かいたいと思います。

栃木支部報 第10号 平成29年(2017年)5月27日発行

発行者 栃木支部長 渡邊 雄二
 編集人 前田 文彦(文責), 深谷 篤志
 発行所 (公益社団法人)日本山岳会 栃木支部
 〒329-0434 栃木県下野市祇園5-12-10 前田方